

HELLO PSJ

Johns Hopkins 大学 Krieger Mind/Brian Institute (MBI) 山根ゆかこ

日本生理学会の皆様こんにちは。アメリカ・メリーランド州・ボルチモアにある Johns Hopkins 大学 Krieger Mind/Brian Institute (MBI) で現在、博士研究員として研究をしている山根です。Dr. C.E. Connor のもとで、サルの見覚系、特に下側頭葉皮質へ向かう腹側経路における視覚情報処理の電気生理学的研究に参加しています。日本を発つ前に多くの人から指摘されましたが、ボルチモアといえば、「治安の悪さ」で有名です。実際行ってみると、研究所のあるキャンパス (Home-wood campus) は比較的緑が多く、のんびりとした雰囲気です。研究室とアパートを往復する分にはあまり身の危険は感じません。行き帰りにリスやムクドリ、ウサギを探しながら歩いているほどです。しかし、現実にはキャンパス付近であっても強盗に襲われたという事例が crime report として報告されており、やはり安全とは言いがたいです。もっとも、多くの場合、そのような被害は深夜や日の出前の時間帯に一人で歩いている時に起こっているようです。また私個人は、日本にいたときほど、深夜遅くまで研究室に残ったりはしていませんので、危険な時間帯に出歩いてはいません。また、あまり遅くまで (アメリカの感覚ですが) いると Connor 先生にも、「早く帰るように」と言われるといった具合です。

初めての海外研究留学でしたので、こちらの研究所へ来ると決まってから、ひどく「カルチャーショック」を受けるのでは? と思っていました。しかし実際に来てみるとその予想はあっさり裏切られました。結局は日本での毎日と同じく、朝研究室へ行き、ごそごそと仕事をし、夜アパートへ戻って寝たらすぐまた次の朝がくるという生活です。日本と同じようなリズムの生活を送ると、違うものは周りの人が日本語を話さないという点く

らいかもしれません。とは言え、やはり些細ではありますが理解できないこと…例えば、この多くの人は週に何度もピザを昼食に食べているがピザ嫌いにはならないようだ…もあります。一番の違いは「食」でしょうか?

MBIのスタッフは全体的に能力が高く、事務の方々や、エンジニアたちは、親切で頼りがいがあります。私は現在、研究室で新たに始める実験の準備をしており、実験装置の製作に、電気系、ハードウェア系のエンジニアが力を貸してくれています。必要な機器について細部に渡って理解してもらわなくてはならないのですが、これを英語で説明するのが一苦労です。しかし、私の (おそらく) 良く分からない英語を嫌な顔もせず、辛抱強く聞いてくれる点には本当に感謝しています。装置ができた後も、それぞれの装置の使い勝手が良いかどうか、ちゃんと動いているかどうか、時折様子を見に来てくれます。

Connor ラボは、今のところ、アメリカ人の院生3人と、インド人の院生、中国人のプログラマー、アメリカ人のテクニシャン、それに日本人のポスドクの私という構成です。学生はよく勉強するし、プログラマーやテクニシャンの能力も高く、小ぢんまりしているが無駄の少ない良い環境だとおもいます。プログラマーは非常に使い勝手の良い実験システムを作ってくれています。データの記録から解析までスムーズに進むよう工夫されています。テクニシャンは背の高いきれいな女の子で動物のトレーニングなどをしていますが、私よりはるかに力強く、動物たちも彼女には従うといった感じです。われらがボス、Connor 先生はこざっぱりとした性格で、ポスドクとしては一緒に仕事がしやすいタイプの人です。今年初めて日本へ行き、かなり強行なスケジュールのうえ風邪ま

でひいてしまいましたが、訪問した日本の研究室の先生方や学生さん方が親切であったのに感銘を受けた様子でした。本人は日本のパソコンなど、日本製のハイテク機器や車がお気に入りのようです。映画、アニメ、プレイ・ステーションなどについても関心があるようで、それぞれについて個人的な評価を聞かせてくれることもあります。

授業などで多忙ながらもフレンドリーな Connor 先生の下で、私はサル下側頭葉皮質の細胞が視覚情報をどのようにコードしているか体系的に調べる実験を準備しています。この研究室では特に視覚イメージの中の「曲線」の情報化に興

味があり、私のプロジェクトもこの流れに沿っています。しかし、今まで研究室で使われてきた方法と異なるアプローチをするので、最初から実験システムを組み上げなくてはならず、先ほど述べましたように毎日その準備に追われています。今まで数学やプログラミングとはどちらかという無縁であった私が、図書館で数式ばかりの参考書を借り、自分で書いたソース・コードを家でもコンパイルする生活を送っています。カルチャー・ショックはなかったものの、アメリカ留学で新しい仕事を楽しんでいます。